

2013.7/ No.137

大阪大学の今を紹介する情報誌

阪大 NOW

Topics

天皇、皇后両陛下 行幸啓

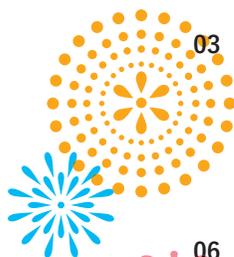
Topics

安倍総理が来学、学生と懇談

濃いつ! 阪大 — ロボット編 —

ますます加速する阪大のロボット研究

Contents



03 Topics

天皇、皇后両陛下 行幸啓



06 濃いっ!阪大 — ロボット編 —

ますます加速する阪大のロボット研究

14 濃いっ!阪大 — 図書館編 —

大阪大学の貴重図書

18 役員室だより

22 阪大ほっとニュース

24 阪大百景

25 職員インタビュー

26 阪大の組織 AtoZ

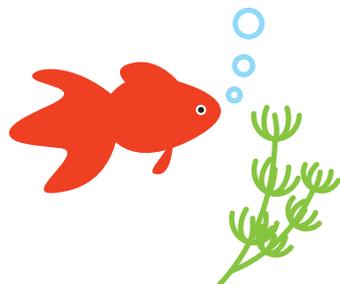
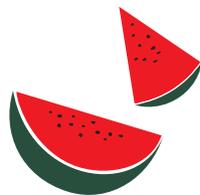
28 受賞(章)・表彰等

30 人事/訃報

32 Information

34 Topics

安倍総理が来学、学生と懇談



表紙写真：歯学部附属病院広報ロボット



詳しくは P11 を見てね!

撮影：クリエイティブユニット



Topics

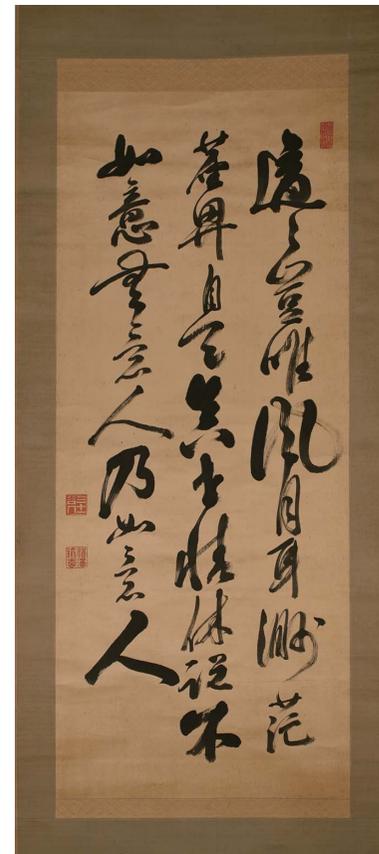
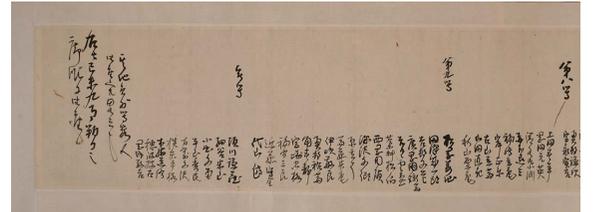
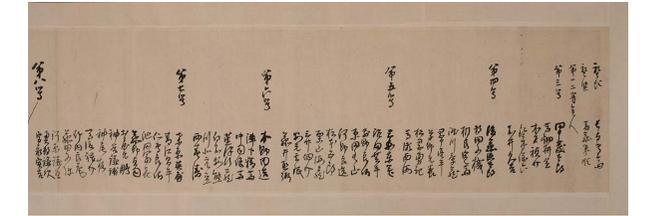
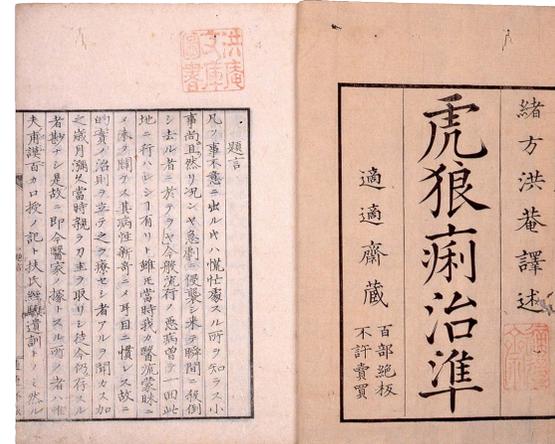
天皇、皇后両陛下 行幸啓

天皇、皇后両陛下が6月25日(火)、大阪大学会館にある適塾記念センターに行幸啓されました。多くの学生、教職員が奉迎するなか、会館前で平野俊夫総長のお出迎えを受けられたあと、平野総長、江口太郎理事・副学長、村田路人文学研究科教授の案内でアセンブリー・ホールに展示した適塾資料の数々を熱心にご覧になりました。

適塾創設から175年にあたる今年、この上ない光栄を賜りました。



両陛下がご覧になった展示資料（一部掲載）



(左上) 虎狼痢治準 緒方洪庵 安政5年(1858) 適塾記念会所蔵

安政5年(1858)秋、大坂でコレラが大流行した際、洪庵が緊急出版したコレラ治療書。洪庵は、わずか5、6日間でこの書を完成させた。皇后陛下は、「わずか数日で」と、おっしゃいました。

(右上) 適塾塾生等級別名簿 安政6年(1859) 適塾記念会所蔵(渡辺公子氏寄贈)

適塾では、塾頭および塾監を頂点に等級を設けて蘭学教育を行い、実力主義の方針がとられた。本資料は、安政6年(1859)9月1日現在の適塾生81名の等級別の席次である。天皇陛下は、「この中で(のちに)有名になった方はいますか」と、お尋ねになりました。

(左下) 福澤諭吉七言絶句 福澤諭吉 明治28年(1895)頃 大阪大学所蔵

「適々皇唯風月耳／渺茫塵界自天真／世情休説不如意／無意人乃如意人」
適々とは自身の好むところに従うの意で、洪庵も適々斎を別号とした。適塾(適々斎塾)の名はこれに由来する。この漢詩からは、洪庵の福澤に対する影響をうかがうことができる。天皇陛下は、「福澤にも七言絶句があるのですね」と、おっしゃいました。

写真提供：適塾記念センター

1

ますます加速する



阪大の ロボット研究

大阪大学のロボット研究のあゆみ

基礎工学研究科システム創成専攻 吉川雄一郎准教授

ロボットの研究開発は我が国の一つの大きな強みであり続けている。このことは我が国の産業用ロボットが世界的に大きなシェアを獲得してきたことや、人間型のロボットが我が国において世界に先駆けて開発されてきたことに現れている。本巻頭言では、僭越ながら、当該分野に身を置く者の一人として、本学におけるロボット研究の系譜を紹介させていただきたいと思う。

本学では、ロボット研究の黎明期から、基礎工学部の有本卓先生、前田浩一先生、工学部の増淵正美先生を始めとする先生方による制御理論の研究や、基礎工学部の辻三郎先生や工学部の白井良明先生を始めとする先生方による人工知能を背景とした知能ロボットの研究が盛んに行われ、当該分野に貢献してきた。このロボット研究の草分け的存在とも言える大先輩方の系譜は連綿と受け継がれ、世界的にも注目度の高い本学のロボット研究を支えてきた。90年代には、最も大きなロボットの国際会議の一つであるIROSや、サッカーを題材とした自律ロボットの競技会であるRoboCupにおいて、その議長や初代プレジデントを工学研究科の浅田稔教授が務め、いずれも大阪で開催するなど、本学は世界のロボット研究の発展に貢献するとともに、常に高いプレゼンスを示してきた。

現在も本学では、様々なロボット研究が展開され、世界の注目を集めている。浅田教授は、基礎工学研究科の石黒浩教授、情報科学研究科の細田耕教授らとともに、人間の認知発達を理解を目指す赤ちゃんロボットの研究で注目を集めている。石黒教授は人間そっくりな見かけを持つロボットであるアンドロイドの研究で注目を集め、人と関わるロボットの研究分野の確立に貢献している。基礎工学研究科の新井健生教授はマイクロロボティクスを基盤とした、

新学術領域バイオアセンブラを開拓している。工学研究科の金子真教授による高速ビジョン技術を医療分野に応用したバイオマーカーの研究、同研究科の大須賀公一教授による災害救助ロボットの研究などの社会的に注目度の高い研究も盛んである。情報科学研究科では細田教授による生体模倣型ロボットの研究、医学系研究科では吉峰俊樹教授の講座における脳波によるBMIの研究が進められるなど、本学のロボット研究は様々な部局に広がりを見せている。また基礎工学研究科の宮崎文夫教授の講座における手術ロボットの研究に代表されるように、部局間の連携も積極的に進められている。また紙面の関係上全ては紹介できなかったが、若手研究者を含む気鋭の研究者らによる重要なロボットの研究は、これら以外にも枚挙にいとまがない。

ごく最近にも、未来戦略機構の第7部門として人間指向のロボット研究を中心とする学際領域研究組織である認知脳システム学部門が、また工学研究科の森島圭祐教授が代表を務めるバイオ、機械、化学の分野を融合した専攻横断型研究組織である生命機械情報システム創成研究イニシアティブが設立されるなど、続々と新たな展開の動きが見える。このような発展、拡がりを通じて、ロボットの研究は本学にとって、そして我が国にとって、今後も益々重要な活動であり続けると期待される。

本稿の執筆にあたって、本学の諸先輩方に色々ご教授いただいたことで、本学のロボット研究の広さ・深さを再発見し、構成員としての責任を再認識することができたことに感謝したい。

1 ますます加速する阪大のロボット研究

災害救助の現場で生きる ロボット技術の開発

～基礎研究の先に実用化研究を見ずえる～

工学研究科機械工学専攻知能機械学部門
動的システム制御学領域
大須賀公一教授



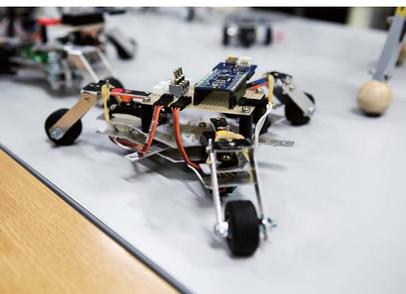
球体ロボット、三脚歩行ロボット、ヘビ型ロボット — 工学研究科の大須賀公一教授の研究室では、現実世界の様々な物体を抽象化した形のロボットが製作されている。どんな環境でも無理のない動きができる制御技術の研究が、災害時に活躍する救助ロボットの開発にも生かされている。

ロボットというと、モーターがあり、複雑なプログラムが組み込まれているというイメージがあるが、研究室には、胴体に脚がついているだけの単純なロボットがたくさんあった。それらは、緩やかな坂道に置くと自然と脚が動き始める。一定の条件下で、脚の角度や関節の制御を調整し、動作の安定性や、省エネルギー性のデータを蓄積している。このように、どんな環境でも制御を調整すれば思い通りの動きをするロボットの研究を突き詰めることで、実は災害時など、予想もつかない状況が想定される場面での応用が期待できる。「ときに環境と制御がうまく重なるとロボットが思いもつかないような動きをすることがあり、それを理解するのがこの研究の要」と大須賀教授は語る。

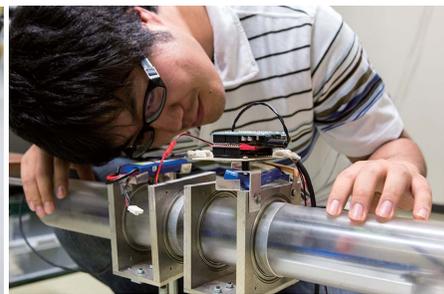
「以前、救助ロボット『MOIRA』などの開発もしましたが、2011年の東日本大震災という未曾有の災害を目の当たりにして、現在はこれまで中途半端だった基礎研究を、むしろ、突き詰めるこそが大学の使命ではないか、その極限として実用化研究につなげるべきだ、というスタンスをとっています。さらにその上で、将来起こりうる大災害で適用可能なレスキューロボットにも生かせるような制御技術を究めていきたいですね」(大須賀教授)



救助ロボット「MOIRA」
二重クローラ方式(上下にクローラをつける方式)によって瓦礫の中に頭を突っ込むとどンドン中に入っていくことができ、瓦礫内の要救助者を探索します



三又蛇ロボット



研究室の様子

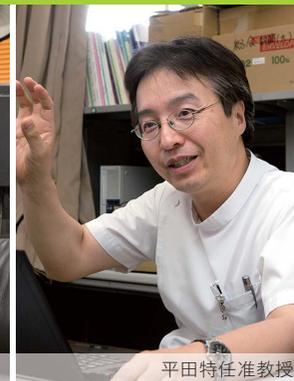


自分の 分身としての ロボット

～患者さんに希望の光～



吉峰教授



平田特任准教授



柳澤助教

医学系研究科 脳神経精神科脳神経外科 吉峰俊樹教授、平田雅之特任准教授、柳澤琢史助教

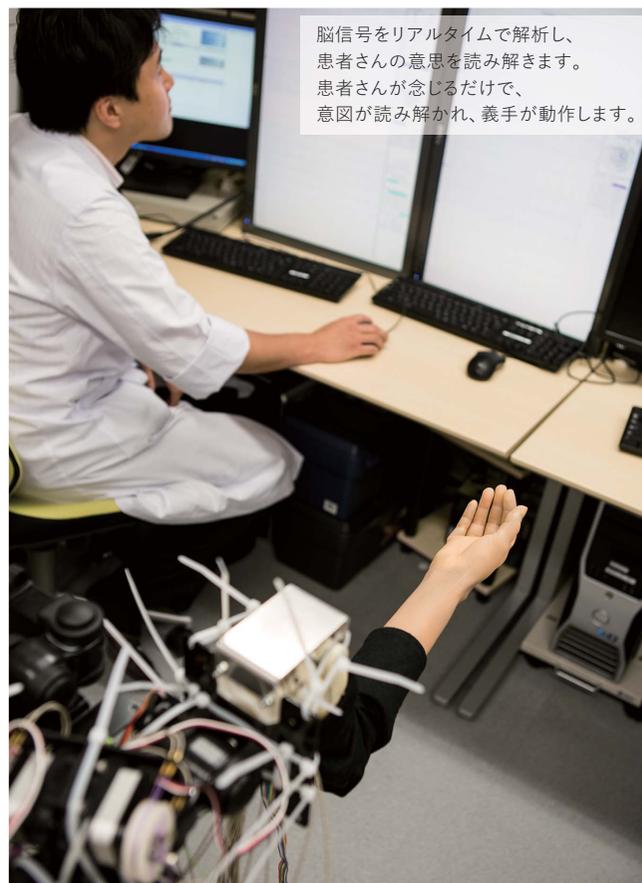
頭で念じるだけで、ロボットが動く—かつて夢のように思われた技術が現実のものとなりつつある。医学系研究科脳神経外科学教室で研究する「ブレイン・マシン・インターフェイス (BMI)」という装置は、脳が出す微弱な電気信号を電極で読み取ることで、手の代わりとなるロボットアームなどを動かすことを可能にする。

BMIの研究は、2012年8月に本学医学倫理委員会で承認を受け、文部科学省、厚生労働省の支援による医学部附属病院未来医療開発部未来医療センターの一大プロジェクトとして進められている。既に臨床研究を開始して

おり、2013年3月には、全身の筋肉が動かなくなる難病である筋萎縮性側索硬化症 (ALS) の患者さんに初めて適用した。

このBMIの特長は、従来のように電極を脳に差し込むのではなく脳の表面に置くというもの。脳の損傷リスクを軽減でき、より安全性が高まるという。BMIの機能が充実すると、インターホンの応答や掃除など日常生活のちょっとした動作でも患者さんの分身として動いてくれることが期待される。

「将来的には、自分の体のように自在に動かせるようになることが目標です。脳という究極の個人情報扱うため、ガイドラインの策定など、超えるべきハードルは高いですが、今後多くの患者さんへの適用を進めて、効果を検証したいと考えています。また、今後患者さんの様々なニーズに応えるためには、他の分野の研究者も巻き込んで、『患者さんを支援する』という共通の目標のもとで一緒に研究を進めていきたいですね」(吉峰教授、平田特任准教授、柳澤助教)



脳信号をリアルタイムで解析し、患者さんの意思を読み解きます。患者さんが念じるだけで、意図が読み解かれ、義手が動作します。



ヒトの手のように自然な動きができる神経義手



こちらは本物の手

1 ますます加速する阪大のロボット研究

ヒトの柔らかい動きを再現できるロボット

～生物が生物らしく動くメカニズムの解明へ～



細田教授

成岡特任助教

情報科学研究科 マルチメディア工学専攻ヒューマンインタフェース工学講座
細田耕教授、成岡健一特任助教

ヒトの運動能力の形成について、詳細なメカニズムはまだ明らかになっていない。情報科学研究科の細田耕教授の研究室では、ヒトの全身および腕や脚など体の一部分を模したロボットを使って、そのメカニズムを明らかにしようとしている。空気圧を利用した人工筋で柔らかい動きから、力強い動きまで再現することを可能にする。中でも赤ちゃん型ロボットでは、興味深い研究が進められている。

細田研究室では、生後7か月目、13か月目の赤ちゃんをモデルにしたロボットが研究に活躍している。通常の電気駆動モーターを実装せず、赤ちゃんの柔らかい動きまで

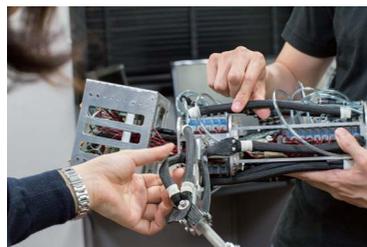
再現できることが、空気圧人工筋の特長だ。生後7か月目の「はいはい」の動きや13か月目の人が初めて歩き出す過程のメカニズムが研究されている。例えば、赤ちゃんが歩き出す時期にばらつきがあるのはなぜかという点について、ロボットの動きを一部制限したり、人工筋の固さ(空気圧)を変えることにより、発達状況が歩き出す時期にどう影響するか観察できる。

ヒトの様々な動きを再現することによって、生物はなぜ生物らしく動くことができるのか、そのメカニズムの解明に近づくことが期待される。

「私はもともと制御工学の出身ですが、生物っぽい動きのメカニズムに興味を持ち、現在の研究に至っています。研究の際には、心理学の先生や、赤ちゃんとその親御さんにも協力を仰ぎ、実際の赤ちゃんの動きを観察し、ロボットの動きと比較しながら、そこにある原理について解明しようとしています。これからもみなさんの協力をいただきながら進めていきたいですね。」(細田教授)

「最近自分の子どもも生まれ、より赤ちゃんを理解したいと思うようになりました。ロボットにできることが増えれば増えるほど、赤ちゃんの発達過程もわかるようになります。今後は、さらにヒトの体が持っている柔軟性や、繊細な動きも

再現できるようなロボットの開発を進められればと考えています。」(成岡特任助教)



ロボットの関節を駆動する空気圧人工筋



赤ちゃん型の筋骨格系を再現したロボット "Pneuborn"

医療の現場で活躍するロボットたち

医学部附属病院 手術支援ロボット「ダヴィンチ (da Vinci)」

2012年10月に医学部附属病院に導入された「ダヴィンチ」は、米Intuitive Surgical社が開発した内視鏡を用いた手術支援ロボット。ロボットに取り付けられた鉗子やメスなどを、医師がモニターを見ながら遠隔操作する仕組みになっている。

医学部附属病院では、健康保険の対象となっている前立腺がんの手術で使用されている。高解像度カメラと3Dディスプレイが患部の微細な部分まで鮮明に映し出し、自由度の高い鉗子によって細かい縫合操作を可能にしている。そのため、手術中の出血量も少なく抑えることができ、患者さんの術後の回復も早まると期待されている。

患者さんは腹腔鏡手術をはじめ従来の治療法も選べるが、身体への負担が少ないことから、特に希望がなければロボットによる治療を行っている。当初は、手術時間が通常の2倍近くにも及んだが、現在はスタッフも慣れてきて、通常程度まで短縮できているという。

泌尿器科の野々村祝夫教授は「現在は、保険が適用される前立腺がん手術での使用にとどまっているが、ダヴィンチを使った阪大発オリジナルの治療も今後開発したい。ロボットによって便利になるような手術を増やしていければ」と話す。



野々村祝夫教授



ダヴィンチを使った前立腺がん手術の様子 (右端は遠隔操作で執刀する野々村教授)

歯学部附属病院 患者さんとふれあう広報ロボット

歯学部附属病院では、2013年4月にエントランスのリニューアルに伴い、患者さんを対象とした病院の広報ロボットを導入した。

患者さんからの評判は上々。一緒に写真を撮る子どもの姿もある。現在募集しているロボットの愛称は350通以上も応募があったとのこと(愛称は7月末ごろ決定予定)。また、ロボットの背中に「診療前の保険証確認にご協力を!」というのぼりをつけたところ、6月は5月に比べて診療前に保険証を確認できた比率が2割も改善されたという。

歯学部附属病院では、今後も積極的に現場にロボットを取り入れていきたいとのこと。まずは患者さん向けの広報用ロボットから始め、最終的には薬剤や機材の運搬、患者さんの案内役などに応用することを目指している。

ロボットのコーディネートをしている医療情報室の玉川裕夫准教授は「現時点ではまだトライアルの段階。安全性の面では、半径80cm以内に物体を感知したら止まるようになっているため、人に取り囲まれると立ち往生してしまう。患者さんの反応も見ながら安全な動きを考えたい。また、ロボットに取り付けているタッチパネルは、例えば、外国から来られた患者さん向けに翻訳機能を付けるなどの活用を考えている」と語る。



病院環境でロボットとヒトの共存を語る 玉川裕夫准教授(左)と野崎一徳助教

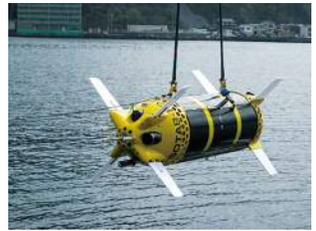
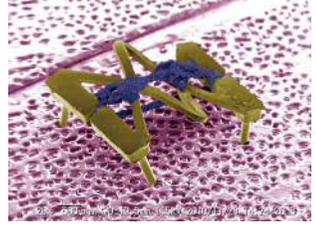


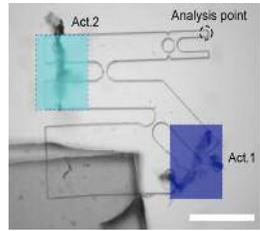
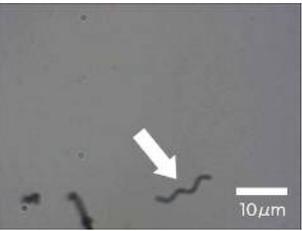
「森崎市治郎病院長も『子どもや高齢者にも好評です。皆様のご意見を活かして機能を向上させたいですね』とロボットの可能性に期待を寄せる。」

1 ますます加速する阪大のロボット研究

阪大のいろんなロボット集めました!

-  災害時の救助など、レスキューをすることを目的としたロボット
-  医療支援を目的としたロボット
-  生物のメカニズムを探求することを目的としたロボット

		
<p>伊豆大島無人観測ロボットシンボジウム 理学研究科佐々木研究室の佐伯准教授が世界規模で主催する伊豆大島噴火に備え、陸用空用多数のロボットが集まる実証試験大会。噴火直前直後の刻々と変化する状況を観測し、住民の避難や火山研究に役立つデータを取得するロボット観測体制をつくるのが目標。</p>	<p>リムメカニズムロボット「ASTERISK」 基礎工学研究科システム創成専攻 新井研究室 地面を歩く時には6本の脚で歩行をおこない、場合に応じて2本の脚を「腕」として用いることが可能。</p>	<p>SOTAB-I 工学研究科地球総合工学専攻 加藤研究室 海中の重油やガスのブルームの検出センサーを搭載、三次元空間を長期間移動し、海底から流出した重油やガスを追跡。移流・拡散情報のデータをリアルタイムに母船に送り、海洋汚染被害を最小限に抑える。</p>
		
<p>SOTAB-II 工学研究科地球総合工学専攻 加藤研究室 タンカーなどの油流出事故時に、複数の本機が自動的に海表面で漂流する油塊を追跡、位置情報や気象・海象情報をリアルタイムで伝送。迅速な重油回収、油防除機材配置をすすめ、環境被害を最小限に食い止める。</p>	<p>REEF 工学研究科地球総合工学専攻 加藤研究室 波浪中や潮流中においても決められた航路を自動的に航行し、サイドスキャンソナーを用いて、藻場など津波によって大きな被害を受けた沿岸域の生態系被害と回復状況の環境調査を自動的に安全に長時間行う。</p>	<p>体液循環型燃料電池を搭載した昆虫サイボーグ 工学研究科機械工学専攻 森島研究室 昆虫自体をロボットとして利用する。既存の電池を搭載せずに、自らの体液で発電した電気を使い、搭載するセンサが駆動。人が入っていけない場所の探索を行うことができる。</p>
		
<p>ヘッドケアロボット 医学系研究科保健学専攻 ロボティクス&デザイン看工融合(パナソニック)共同研究講座 ロボティクス&デザイン看工融合共同研究講座では、パナソニックが開発中のヘッドケアロボットに関して、洗浄性や快適性について共同で研究を行っている。</p>	<p>マイクロハンド 基礎工学研究科システム創成専攻 新井研究室 パラレルリンク機構を用いた2本指マイクロハンドにより、数μm～数百μmの大きさの細胞を操作するロボット。</p>	<p>筋肉の細胞で動くマイクロロボット 工学研究科機械工学専攻 森島研究室 電源を必要とせず、化学エネルギーだけで駆動する、部品が細胞からなるマイクロマシン。将来、人体の中を動いて検査したり、治療したりするロボットの部品となる。</p>

		
<p>光で制御できる筋細胞マイクロマシン 工学研究科機械工学専攻 森島研究室 筋細胞を駆動源とするマイクロマシンを光を使って遠隔操作できる。体の外から光を照射して、人体の中で動きを制御し、病気を治療するマイクロロボット。</p>	<p>mighty 工学研究科知能・機能創成工学専攻 杉原研究室 運動知能研究室では、人の身体・運動から知能に迫る研究と、人のようにダイナミックな人型ロボットの開発を双方向に進めている。</p>	<p>回転磁場で動く細胞内駆動ナノマシン 工学研究科機械工学専攻 森島研究室 細胞の中に入って、細胞内の物性を計測したり、力学的・化学的刺激等の微細作業ができるナノマシン。</p>
		
<p>ペダリングロボット 基礎工学研究科機能創成専攻 宮崎研究室 ヒトが筋肉を動かす際の微弱な信号(筋電位)を16本の人工筋肉で駆動されるロボットに入力すると、滑らかなペダリング動作が再現。筋電位だけを用いて滑らかな動きを生成した事例は世界的にもほとんどない。</p>	<p>Platypus 工学研究科地球総合工学専攻 加藤研究室 魚の胸ひれ運動を模倣。沿岸域における波や潮流などの厳しい環境のなかで高い操縦性能や位置保持性能を実現し、波浪や潮流中の水中構造物の点検や水中構造物の厚みの計測や亀裂の検査などに用いる。</p>	<p>RT-I 工学研究科地球総合工学専攻 加藤研究室 海水浄化や生物多様性の維持の面から重要な役割を果たす干潟の環境モニタリングを行うため、カメの歩きと泳ぎから学び、カメ型脚部を持つ水陸両用ロボットを開発。</p>
	<p>大阪大学のロボット研究は、すでに世界的にもトップレベルにあります。吉川先生の巻頭言にもありますように、本学は以前から様々な分野で産業用ロボットなどを社会に送り出していますし、様々な研究室で、様々なロボット研究が日夜実施されております。</p> <p>今回の特集では、それらの中でも「私たちの生活に密着して活躍するロボット」の研究はどこまで進んでいるのだろう・・・ということから、「災害時に活躍するロボット」、「医療支援ロボット」、「生物のメカニズムを探求するロボット」に焦点を当てました。これは、大阪大学が進められているロボット研究のほんの一握りです。それでもこれだけのロボットが集まる!これはすごいことです。</p> <p>ご協力いただきました研究室の皆さま、ありがとうございました。またの機会に、新たな視点から大阪大学のロボット研究について特集を扱える日を楽しみにしています。 (広報課)</p>	

2 大阪大学の貴重図書

貴重図書とは？

貴重図書は、附属図書館の貴重図書室に所蔵されている資料のことで、江戸時代の和書や漢籍、洋書などの古い書物をはじめ、古地図やデッサンなど、様々な資料を所蔵しています。貴重図書とは言っても、必ずしも「古い」書物ではありません。例えば、日本でも大阪大学にしかないような文庫、文部科学省の予算措置を受けて購入した高価なコレクション、日本の紡績業界の歴史に関する資料なども含まれます。

貴重図書は、研究目的であれば各図書館にて所定の手続きを踏んで利用することができます。大学の教職員・学生はもちろん、卒業生、一般の方も利用可能です。

貴重図書の利用方法

貴重図書を見たいとき

「貴重図書室利用申請書（学内者用）」に記入のうえ提出
申請はご利用希望日の前日まで。すべての学生は、指導教員の押印が必要です。

複写・撮影をしたいとき

「貴重図書を見たいとき」の書式とは別に、「貴重図書特別利用許可願（学内・学外共通）」を希望日の一週間前までに提出

※貴重図書は通常のコピー機では複写できません。

複写の方法は、マイクロフィルム作成（専門の業者が撮影）か、デジタルカメラによる撮影（利用者自身が所定の場所で撮影）のいずれかとなります。

出版物、論文に掲載したいとき

「貴重図書特別利用許可願（学内・学外共通）」に記入のうえ提出。
掲載許可がおり次第、担当からご連絡差上げます。

その他、貴重資料について問合せたいとき

[所蔵調査について]

以下の例のように必ず典拠を記載のうえ、FAX もしくは E-mail にてお問い合わせください。

例 1) 論語逢原（典拠『懐徳堂文庫図書目録』漢籍の部 15 頁）

例 2) 瑠璃天狗（典拠『忍頂寺文庫目録』35 頁 請求記号 G39）

総合図書館 参考調査担当

FAX：06-6850-5069 E-mail：sanko-honkan@library.osaka-u.ac.jp

[閲覧・複写・掲載について]

利用時間 平日 9:00-17:00

総合図書館 フロアサービス担当

TEL(FAX)：06-6850-5066(6044)

E-mail：hserv01@library.osaka-u.ac.jp

※卒業生・学外一般の方が利用される場合は、上記の連絡先までお問い合わせください。

※いずれの書式も、総合図書館メインカウンターにご提出ください。

※総合図書館以外で所蔵している資料については、各図書館までお問い合わせください。

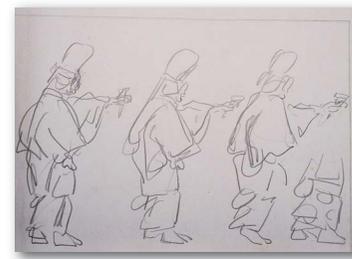
コレクション名	内容
適塾	大阪大学の原点とされており、緒方洪庵および適塾関係者の業績を顕彰する重要かつ基本的な図書等の資料。現在は、そのほとんどの資料を適塾記念センターで保管している。約 840 点。
西洋古版アジア地図	西洋で発行されたアジア、特に東アジア・北アジアに関する地図約 100 点のコレクション。地図の発行年代は 1570 年代から 1870 年代まで 300 年にわたっており、西洋人のアジア地理知識の変遷が伺える。
忍頂寺文庫	歌謡研究者として知られる忍頂寺務氏（1885-1951）旧蔵の歌謡資料を中心としたコレクション。歌謡関係の他、洒落本・狂歌本・俳書や芝居・遊里関係などの資料を収集している。1990 点。
須田国太郎能・狂言デッサン	平成 13 年 7 月に須田寛氏（株式会社 JR 東海会長）から寄贈された、洋画家、須田国太郎画伯（明治 24 年～昭和 36 年）のデッサン。本業である洋画制作のかたわら、昭和 2 年から昭和 32 年までのあいだに、主として京都や大阪の能楽堂などにおける能や狂言の上演舞台を対象にしたデッサンである。約 5000 枚。
赤木文庫	赤木文庫主、横山重氏の収集による、寛永 10 年（1633）から享保 4 年（1719）までに刊行された 100 点におよぶ稀覯「古浄瑠璃正本」（元禄の歌舞伎狂言本を一冊含む）のコレクション。
笹野文庫	中世文学の研究者であった笹野堅氏旧蔵本の、浄瑠璃本約 170 冊のコレクション。古浄瑠璃 20 数冊、後期浄瑠璃 60 冊あまり、他近松作品を多数含む。
紡績協会資料	日本紡績協会が収集した、日本の紡績業界の歴史に関する資料や紡績各社の明治期以降の考課状（戦後は有価証券報告書）などの資料を含む約 3 万点のコレクション。
和古書・和装本	江戸期の和古書。旧制大阪高等学校の蔵書や購入・寄贈図書を含む。和装本は、明治期以降の和古書。約 2,000 タイトル。
大型コレクション	全国共同利用を目的として、昭和 53 年度から平成 14 年度までの間に文部科学省の予算措置を受けて収集した特別資料。ロバート・オーウェン・コレクションなど約 30 コレクション。



ブラウ父子『中国図』, 1650
(西洋古版アジア地図より)



粹好伝夢枕
(忍頂寺文庫より)



須田国太郎「道成寺」紙・鉛筆, 1949
(須田国太郎 能・狂言デッサンより)



『灯台記』寛永 10 年 (1633)
(赤木文庫より)



「遊女誠草」丸本 (笹野文庫より)

2 大阪大学の貴重図書



「懷徳堂」は、「適塾」とともに大阪大学の源流である。と聞いたことのある方もいらっしゃるでしょう。一九四九年、約三万六千点の資料が懷徳堂記念会より寄贈され、現在、「懷徳堂文庫」として総合図書館六階の貴重図書庫に保管されています。

この文庫の特徴は、江戸時代から昭和に至る貴重な資料群がまとまって残されていること。また、書籍だけでなく、扁額、扇、版木などの器物も多いこと。さらに、現在も寄贈や購入により、資料点数が増えている「生きていく文庫」であることです。現在の懷徳堂文庫の資料は約五万点に上ります。

懷徳堂は、一七二四年に大阪町人たちの出資により設立された学問所です。儒学・漢学を中心としながらも、その探求心は天文学や医学などの方面にも及んでおり、先進的な学問体系が確立していたことがうかがえます。

これらの資料は、文学部内に設置されている「懷徳堂研究センター」の教員・研究者をはじめ、学外や海外の研究者からも貴重な研究資料として活用されています。また、資料の電子化も積極的に進められており、学術サイト「WEB懷徳堂」では、これらの資料の一部を誰でも閲覧することができます。

大坂町人の息づかいが伝わる 懷徳堂文庫



外国学図書館書庫三階の貴重図書室に「石濱文庫」があります。石濱文庫は、石濱純太郎氏（二八八八—一九六八）の旧蔵書を中心とした東洋学コレクションで、一九六八年に同氏の没後、大阪外国語大学（現大阪大学）が御遺族から寄贈と購入により受け入れました。四万冊以上にわたる図書・雑誌に加えて、拓本や写真など二万点を超える研究資料があり、その後約十年におよぶ整理・編纂作業を経て、『石濱文庫目録』が刊行されました。

石濱氏は、大阪市の生まれで、東京帝国大学で中国文学を学び、大阪外国語学校（大阪外国語大学の前身）でモンゴル語を学んだ後、重建懷徳堂（明治時代初めに閉校した懷徳堂を大正時代に復興したもの）などを活動の場として、東洋学の諸分野の研究に携わりました。大阪の町人学者と自他ともに認め、大阪市内住吉の自宅には、学問・文芸に志す若者がつどいました。

このコレクションの最大の特徴は、モンゴル語・満洲語・西夏語・チベット語など、アジアの言語に関する資料と研究書が多く収められていることです。

すでに現地では手に入らない図書・雑誌や、石碑の拓本なども保管されており、現在でも、東洋言語学や歴史学の研究者が、国内のみならずモンゴルなどからも訪れるとのこと。

東洋学資料の宝庫 石濱文庫



左九羅帖 (さくらじょう)

中井履軒が著した本草書。動植物をわかりやすく描き、その傍らに名称を記す体裁によって、その動植物の名称を示す。その筆致は極めて写実的であり、履軒の本草への関心を伝える資料であるとともに、履軒の画才を窺わせる資料ともなっている。



入徳門聯 (にゅうとくもんれん)

中井竹山の筆になる竹製の聯。懷徳堂の中門の両脇に掲げられていたもので、表面に石灰で「力学以修己」「立言以治人」と白書されている。「学に力めて以て己を修め」・「言を立てて以て人を治む」と読み、まず自己の修養を行った上で、次に言説を立て社会に発信していくことをいう。



木製天図 (もくせいてんず)

中井履軒が作成した木製回転式天体模型。履軒は、『天経或問 (てんけいわくもん)』などの書物や、麻田剛立 (あさだごうりゅう) などの一流の天文学者との交流から、天文学に関する知識を取得した。この模型の動きを「WEB懷徳堂」上の「天図シミュレーション」で体験することができる。



魏靈藏造像記 (ぎれいざうざうざき)

石濱文庫には、千枚以上の資料価値の高い拓本が所蔵されている。中国河南省洛陽近くの龍門石窟の造像記 (壁面に浮き彫りにされた仏像のかたわらに由来を刻んだもの) の拓本が最も多い。写真は、書道史上で名高い「龍門四品」の一つで、6世紀初めの北魏時代のもの。



青旗 (せいき、Köke tur (フフ・トグ))

新京 (満洲国)。1941-45年。日本によるモンゴル人への啓蒙活動を背景として、満洲国で刊行されたモンゴル語の新聞。文化大革命などのため、現在、中国やモンゴルで見つけることは難しい。ほぼ全号が揃う石濱文庫のものは貴重で、モンゴルの研究者からも注目されている。



石濱純太郎氏

懷徳堂文庫の閲覧・複写を希望される場合は、事前の申請が必要です。所定の申請書にご記入の上、総合図書館フロアサービス担当までご連絡ください。詳細については、総合図書館Webページ (<http://www.library.osaka-u.ac.jp/sougou.php>) の利用案内「貴重図書を使う」をご覧ください。

石濱文庫の資料を閲覧するには、「貴重図書利用願」の手続きが必要です。事前に外国学図書館にお問い合わせください。

役員室 だより

“世界10指”に向けた部局 マネジメント及び人材育成・獲得支援策

大阪大学は、創立100周年を迎える2031年には、研究型総合大学として世界で10指に入ることを目指して、以下の具体的な支援策を実行しています。

1 卓越した外部人材の招致

◆大阪大学特別教授制度

目的：大阪大学が国際競争力のある研究・教育の世界的拠点となるため

概要：本学の未来戦略を推進していく上で、卓越した業績を活かし、先導的な役割を担う教員に対し、「大阪大学特別教授」の称号を付与するとともに、その活動を支援する手当として「特別教授手当」を支給

◆グローバル化推進教授招へいプログラム

目的：教員の多様化並びに国際化、学部・大学院学生教育のグローバル化の推進を支援するため

概要：国際的に評価されている外国の研究型大学のPh.Dを取得し、世界トップレベルの優れた業績をあげている研究者を大阪大学教授として新たに雇用する場合に教育研究経費を交付

◆外国人教員等採用促進プログラム

目的：学部・大学院における研究・教育のグローバル化を推進するため

概要：部局が優れた業績をあげている外国人研究者等を大阪大学専任教員として雇用する場合に研究教育整備費を交付

2 内部人材の更なるパワーアップ

◆学内財源配分の見直し

目的：基礎研究の推進や人材育成など、大阪大学の将来の発展に有効活用することを目指すとともに、「基礎研究→応用研究→社会への還元→基礎研究」の未来志向のサイクルを確立するため

概要：間接経費、寄附金、産学官連携推進活動経費及び附属病院収入といった財源の配分を再構築。その一環として、間接経費については、間接経費を獲得した研究者に獲得額の20%相当額が配分できるようにすることで、競争的研究資金の獲得を全学的に推進

◆研究者に対する報奨制度の拡充

目的：科学研究費補助金（以下、「科研費」と表記）等の競争的資金による研究の活性化を図るため

概要：科研費などの競争的資金を新たに獲得した研究者や、多額の間接経費を獲得した研究者を報奨するため、新たに大阪大学総長顕彰により表彰し、報奨金を支給

◆大阪大学未来研究イニシアティブ・グループ支援プログラム

目的：大阪大学ならではの基礎研究の推進や、国家的課題解決に向けた研究にイニシアティブを發揮するため

概要：部局横断的な提案や新たな研究分野の創出の芽を育てる提案に対し研究費を支援

◆科研費チャレンジ支援プログラム

目的：大型の競争的資金へのチャレンジを支援するため

概要：科研費の「基盤研究C」「若手研究B」に応募している研究者の上位研究種目への挑戦を支援

◆科研費相談員制度

目的：科研費の採択率の向上を図るため

概要：科研費へ初めて応募、上位種目等に挑戦する研究者に対し、研究計画調書作成等をアドバイス

◆大阪大学特別教授制度（再掲）

3 グローバル化の強化推進

日本人学生と留学生が互いの文化を理解し切磋琢磨する環境（グローバルキャンパス）の実現へ

2020年までの目標値

- ・海外に送り出す日本人学生……4%→8%
- ・海外からやってくる留学生……8%→15%
うち、学部生（正規及び短期留学生）4%→10%
大学院生（正規及び短期留学生）15%→25%

◆学生の海外派遣、受け入れ支援

目的：教育の国際化に向けた取組を加速するため

概要：留学、海外研修等に積極的に参加できるように学生に経済的支援を行う。

また、学生の海外派遣及び留学生の受け入れを積極的に行う部局に対しても経費を支援

◆国際共同研究促進プログラム

目的：最先端の研究を展開している外国人研究者と大阪大学の研究者との共同研究を支援することにより、研究力を一層高めるとともに、大阪大学のグローバル化を促進するため

概要：来日研究者本人の旅費・滞在費や、ホスト側から相手先研究室への教員、研究員、学生の派遣旅費、ポスドクの雇用経費などを支援

4 部局マネジメントの充実

◆部局長未来戦略裁量経費の配分

◆事務（部）長未来戦略裁量経費の配分

目的：部局の優れたマネジメントを全学的に応援し、大学全体に相乗効果が生まれることを目指す

概要：大阪大学の未来戦略実現のため、積極的なマネジメントを行い、優れた成果をあげつつある部局や部局の事務部等に対して、裁量経費を配分



「大阪大学特別教授」を決定

本学の未来戦略を推進していく方策の一つとして、「大阪大学特別教授制度」を創設しました。これは、卓越した業績を有し、先導的な役割を担う者に対し、その貢献を讃えるとともに、その活動をサポートすることにより、本学が国際的競争力のある世界的拠点となることを目指すことを目的としています。

この度、各部署局長及び副学長から推薦のあった候補者について、外部委員を交えた選考委員会による審査を経て、10名に「大阪大学特別教授」の称号を付与することを決定し、記者会見を行い、学内外へお知らせしました。

被称号付与者には、「大阪大学特別教授」の称号が付与（期間最長3年）されるとともに、これからの活動を支援する手当として「特別教授手当」が支給されます。



称号授与者と平野総長（平成25年7月1日撮影）



各特別教授に授与された賞状と盾

「大阪大学特別教授」（平成25年7月1日付け称号付与）（五十音順）

審良 静男
 (免疫学フロンティア研究センター・教授)
 称号付与期間：H25.7.1～H28.6.30
 功績：自然免疫に関する研究業績

坂口 志文
 (免疫学フロンティア研究センター・教授)
 称号付与期間：H25.7.1～H28.3.31
 功績：制御性T細胞による免疫応答制御に関する研究業績

石黒 浩
 (大学院基礎工学研究科・教授)
 称号付与期間：H25.7.1～H28.6.30
 功績：人と関わるロボットの研究開発に関する研究業績

難波 啓一
 (大学院生命機能研究科・教授)
 称号付与期間：H25.7.1～H28.6.30
 功績：生体超分子の立体構造と機能の解明に関する研究業績

大竹 文雄
 (社会経済研究所・教授)
 称号付与期間：H25.7.1～H28.6.30
 功績：労働経済学、公共経済学に関する研究業績

西尾 章治郎
 (大学院情報科学研究科・教授)
 称号付与期間：H25.7.1～H28.6.30
 功績：情報科学に関する研究業績

河田 聡
 (大学院工学研究科・教授)
 称号付与期間：H25.7.1～H28.6.30
 功績：ナノフォトニクスに関する研究業績

原田 明
 (大学院理学研究科・教授)
 称号付与期間：H25.7.1～H27.3.31
 功績：高分子化学に関する研究業績

北岡 良雄
 (大学院基礎工学研究科・教授)
 称号付与期間：H25.7.1～H28.6.30
 功績：物性物理学に関する研究業績

福住 俊一
 (大学院工学研究科・教授)
 称号付与期間：H25.7.1～H27.3.31
 功績：機能物質化学に関する研究業績

新しい教育研究組織を整備

新たな予算措置を伴わない教育研究組織の整備事項として、6月1日付けで以下の2センターを設置しました。

●教育学習支援センター

(TLSC: Teaching and Learning Support Center)

日本の大学生は学修時間が少ないと言われていています。1週間あたりの学修時間に関する日米大学生へのアンケート調査によれば、日本では1～5時間と答えた人が一番多いのに対し、米国では11時間以上と答えた人が半数を超えるそうです。大学生の姿勢の違いだけでなく、教育方法や成績評価方法の違いに起因すると思われていますが、教育の国際化の進展とともに大学教育の質保証の観点から、大学生が主体的に学ぶような制度改革及び教育方法の改善が求められています。

本学では対話型や課題解決型授業など学生に主体的な学びを促す教育方法を開発し、FD活動を通してそのような教育を実践する教員を支援するため、「教育学習支援センター」を設置しました。

上記の目的を達成するため、竹村治雄センター長のもと、関係部局等の協力も得ながら、「主体的な学びを重視した教育方法の開発及び支援」「ワークショップ型FDの開発及び実施」「TA機能の強化」「意欲的な成績優秀者を対象とする特別教育プログラムの研究開発」「キャリア形成のための教育プログラムの研究開発」「社会貢献を通じた教育プログラムの実施」「課題発見型インターシップの実施」等の業務を行い、本学における教育学習支援機能を強化していきます。

●キャンパスライフ支援センター

(SCCL: Support Center for Campus Life)

学生生活支援、キャリア支援及び障害等を有する学生への修学支援に係る計画、実施、評価、改善、啓発及び広報を行うことにより、本学における学生支援体制の充実を図り、もって学生の多面的成長を促進することを目的として「キャンパスライフ支援センター」を設置しました。

これまで支援を行ってきた学生支援ステーションを発展的に改組し、各ユニット(障害学生支援ユニット、学生生活支援ユニット、キャリア支援ユニット)が共通する問題について相互に連携して対応することで、学生への支援をより充実させることを目指します。

詳細については、本学公式ウェブページで随時更新していきます。

理事・副学長(教育担当) 東島 清

大阪大学の禁煙に関する宣言

本年5月15日に平野総長から、下記のとおり大阪大学の禁煙に関する宣言がありました。

この宣言を実行するため、6月からワーキンググループによる検討が始まりました。

各キャンパス、各部署の現状を把握しつつ、学内外の環境対策も含め、効果的な施策の検討を進めてまいります。

大阪大学では、健康増進法(平成14年法律第103号)の趣旨を踏まえ、快適なキャンパス環境の向上に資することを目的に、指定された喫煙場所以外を禁煙とする「大阪大学受動喫煙防止指針」を定め、各部署の協力を得ながらキャンパス内の受動喫煙防止の措置を講じてきました。

このたび、大学構成員すべての健康増進を図り、安全、安心、快適なキャンパス作りを目指し、未来戦略を具現化するために、さらにより一層の受動喫煙防止を徹底することとし、2015年(平成27年)4月1日からのキャンパス内禁煙実施を目指し、その具体的なロードマップについて検討を開始いたします。

この宣言を実行するため、各部署局長等の中から選ばれたメンバーで構成する喫煙対策ワーキンググループを設置し、様々な角度から検証しつつ、施策の検討を進めていきたいと考えています。

平成25年5月15日
 大阪大学総長 平野 俊夫

理事・副学長(人事労務・多様な人材活用担当)
 尾山 真之助

大阪大学が“うめきた”で躍動

「大阪大学未来戦略シンポジウム～未来へ始動～」

6月1日(土)、うめきた・グランフロント大阪で「大阪大学未来戦略シンポジウム～未来へ始動～」を開催しました。

大阪大学が新たに立ち上げた「未来戦略機構」が挑む新しい研究・教育の可能性について平野俊夫総長が講演しました。また、文部科学省高等教育局の板東久美子局長(当時)、関西経済連合会の松本正義副会長からは、国や経済界から大阪大学に寄せる期待、求める人材について講演いただきました。

「未来戦略機構」とは、大阪大学で生み出された新たな知を、より広く、より早く社会へ伝え、社会の要請に的確にこたえるための我が国の大学のモデルケースともなる新たな試みです。

今回のシンポジウムでは、博士課程教育リーディングプログラムで実施されている先駆的な大学院教育への挑戦や、未来を切り拓く異分野融合研究の取組として創薬基盤科学や認知脳システム学、光量子科学についても報告がありました。

この「大学の中の大学」ともいえる未来戦略機構から、数年後には、教育と研究の双方から全く新しい人材や知識が生み出され、大阪大学から社会に、大きな貢献をもたらすことができるのではないのでしょうか。

シンポジウムの最後には、アンドロイドが近未来について対話するデモンストレーションもあり、会場を満席とする350人とともに、大阪大学の「未来」への期待が「確信」に変わる催しとなりました。



エントランス



平野総長



板東局長



松本副会長



ロボットを使ったデモンストレーション



コーヒーブレイクの様子

第8回ホームカミングデイ 同窓生らが大学会館に集う

5月3日(金)、第8回目となるホームカミングデイを大阪大学会館で開催しました。当日は、卒業生とその家族や教職員OB・OGなど、約350名の参加がありました。

恒例の応援団による学生歌演奏、演舞により開幕。人間科学部OGで関西テレビ放送株式会社の関純子アナウンサーの司会により、大阪外国語大学および文学研究科OBの河田悌一日本私立学校振興・共済事業団理事長から、「司馬遼太郎のまなざし—大阪、外大、阪大—そしてM・ジャンセン先生」をテーマに、ご自身の思い出も交えてユーモアたっぷりに講演がありました。

その後、会場を総合図書館下食堂に移し、懇談会が催されました。洋画家の中村貞夫氏(文学部OB)による乾杯の発声で開会。会場内ではあちこちで思い出話に花が咲き、参加者が旧交を深める和やかな会となりました。

今回の参加者には記念品として、中村氏の作品をモチーフにしたポストカードがプレゼントされました(写真)。



大阪大学司馬遼太郎記念学術講演会に700名が来場

6月8日(土)、作家、司馬遼太郎氏(大阪外国語大学出身)の業績を記念し、日本人と日本人のあり方を考える「大阪大学司馬遼太郎記念学術講演会」(大阪大学主催、産経新聞社/関西2100委員会共催)をサンケイホールブリーゼで開催しました。当日は、司馬氏の熱心なファンなど約700名の参加がありました。

今年のテーマは「越境する知と日本人のこころ」。第1部では、文芸評論家の三浦雅士氏と国際日本文化研究センター所長の小松和彦氏が、それぞれ「ユーラシアの眼」「異人論からみた日本文化」をテーマに講演を行いました。また後半には、司馬氏と親交のあった京都大学名誉教授の上田正昭氏がビデオメッセージで司馬氏との思い出を語る場面もありました。第2部では、産経新聞編集委員石野伸子氏の司会により、三浦・小松両氏の対談セッションが行われました。会場は、両者の軽妙なトークで時折笑いに包まれるなど、講演会は終始和やかな雰囲気の中に閉会しました。



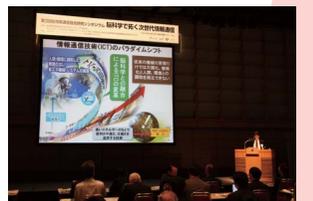
第2部の対談
(右から小松氏、三浦氏、石野氏)

第3回脳情報通信融合研究シンポジウムを開催

6月10日(月)、東京国際フォーラムで「脳科学で拓く次世代情報通信」をテーマに、第3回脳情報通信融合研究シンポジウムが開催されました。本シンポジウムは、脳情報通信融合研究センター(CiNet)に参画している大阪大学、情報通信研究機構(NICT)、国際電気通信基礎技術研究所(ATR)主催、大阪大学未来戦略機構第四部門「ヒューマンウェアイノベーション博士課程プログラム」の共催によるものです。

坂内正夫情報通信研究機構理事長の開会挨拶に始まり、引き続き、柳田敏雄脳情報通信融合研究センター長が、本年3月に大阪大学吹田キャンパスに開所した脳情報通信融合研究センターの概要などを説明しました。その後、センターを構成する4領域の研究紹介、特別講演、パネルディスカッションが行われ、馬場章夫大阪大学理事・副学長の閉会挨拶で幕を閉じました。

本シンポジウムには400名を超える参加があり、会場から活発に質問が出るとともに、併設されたポスターセッションにも高い関心が寄せられていました。



柳田センター長による説明



「人工芝に生まれ変わった吹田キャンパス総合グラウンド」

OWL { カテゴリ: 阪大の建物
キーワード: 吹田キャンパス/グラウンド

OWL (Osaka University Web Library) とは…
大阪大学の学内構成員(学生・教職員)が、大阪大学のさまざまな素材を自由にダウンロードし、利用するためのウェブサイトです。最適化された高画質な画像、各種資料やプレゼンに利用できるテンプレートを利用規約を満たす限り自由に利用できます。「阪大百景」は、クリエイティブユニットがクリエイティブ・コモンズライセンスで提供する画像ライブラリで、カテゴリおよびキーワードから写真を選択できます。OWLには「マイハンダイ」からログインのうえご利用ください。https://my.osaka-u.ac.jp

点字翻訳から世界が広がる

赤松威倫 (あかまつ たけみち)

附属図書館 箕面地区図書館サービス課 外国学図書館班

小・中学校時代、総合学習の時間で「点字」に興味をもった赤松さん。大学2回生で受講した「図書館資料論」の講義で点字の話があり、当時の興味を思い出した。そして講習会を経て点字翻訳ボランティアの道へ。今は奈良県の「青垣会(あおがきかい)」というボランティア団体で書籍の点字翻訳(点訳)をしている。

本インタビューは、外国学図書館「るくす(ラーニング・commons)」で行いました。



点字の基本は「分かち書き」

講習会では、まず半年間「点字」の基本を学びました。点字は、1マスを6つの点で構成します。これらを組み合わせ合わせて文章を作ります。指で読みやすいように文節などで区切る「分かち書き」というルールがあり、覚えるのに苦労します。たとえば、「桜並木」といった3拍以上の意味のまとまりをもつ複合名詞では「サクラ ナミキ」となりますが、「持ち上げる」といった複合動詞は続けて表記します。ただし、「振り子時計」は区切らず、「恋する」は「コイ スル」となる例外もあるので、今でもテキストは欠かせません。点訳には品詞や活用、語の構成といった文法知識も必要になります。大学時代に国語教育を専攻していたので、その知識が役に立っています。いろいろと調べることで、さらに日本語への興味がわいています。

点字は、凸面を左から右に指で読むため、手打ち点訳時には紙の裏面から右始まりで作業を進めていきます。



利用者からの感想が活力

半年間講習会で基本を学んだ後、実際に書籍の点訳が始まります。講師や先輩からチェックが戻ってきたら、間違いを修正するのですが、なかなかうまくいきません。紙に凸をつけるので修正は触読に影響し、1枚すべて打ち直しということもよくありました。今では、PCで点字作成を支援するソフトを中心に作業していますが、それでも手打ちの知識が求められることもあります。

現在は、点字蔵書用の書籍を作成しています。まだまだ未熟なので、文庫1ページを点訳するのに約20分。手の空いたときにしているの、見直しも含めて一冊

に半年程度かかっています。シリーズもの場合には、自分の担当分を完成させないと内容が飛ぶので、自分との闘いです(笑)。

雑誌の切り抜きの点訳などもしていました。ファッション誌などは、どのような色の、どのような模様の服を着ているのか、客観的なイメージを伝える技術も必要です。記事を読んだ方からのコメントをいただけることもあります。「今の若者の間ではこういう服が流行っているのね」といった何でもない感想ですが、とてもうれしく、これからもがんばろうという励みになっています。

図書館業務と点字翻訳の共通点

今は、外国学図書館で図書職員として、資料と利用者をつなぐ役割をしています。小さい頃から本が好きで、本を読んだときの「世界が広がる」感覚をみんなに伝えたかったです。今は、点字と直接かかわる仕事ではありませんが、「情報を伝える仲介者」という点では、図書館業務も点訳に通じるものがあります。どうしたら分かりやすく相手に伝えられるか日々模索です。もし、学内に点字を必要とする方がいらっしやれば、何かお手伝いしたいですね。

身の回りにある、単なる風景のひとつだった「点」に意識がいくと、決して目の不自由な方だけが対象ではないことがわかります。洗髪中でも、シャンプーボトルの側面に触ればコンディショナーとの区別がつかますよね。いわゆるユニバーサルデザインです。それらに気付くと、普段とはまた違う世界が見えたり、日々がすこし暮らしよいものになったりするかもしれませんね。



ふたごが拓く予防医学の未来

医学系研究科附属 ツインリサーチセンター

同じ生活習慣なのに健康診査で異常がある人とならない人はなにが違うのか。すぐに落ち込む人と楽天的な人はなにが違うのか。身体能力の高い人はなにが違うのか。衝動買いする人と財布の紐が固い人はなにが違うのか。これらの違いに体質（遺伝的な要素）はどのくらい影響しているのでしょうか？そしてその体質（遺伝的な要素）は努力で変えられるものなのでしょうか？この命題を解明する研究法として、ふたごを対象にした研究（ツインリサーチ）があります。

一卵性双生児は遺伝子（ゲノムDNA）の配列が同一です。どちらか1人だけ検査値に異常があれば、それは生まれつきの体質（遺伝子）ではなく、環境に原因があることが明らかです（右頁図参照）。また、2人とも同じ異常を示せば体質が大きな要因であることがわかります。さらに、遺伝要因が半分同じである二卵性双生児も併せて対象とすることで、さまざまなアウトカムについて遺伝要因寄与率と環境要因寄与率を理論的に計算することができます。このアウトカムは、たとえば疫学調査結果、疾患の有無、血液などを用いた臨床検査値が考えられますが、医学にかかわらず、心理学的調査、経済観念、行動学など、ヒトにかかわる数値化できるすべての分野で応用可能です。



アウトカムにより異なる遺伝因子・環境因子の寄与率
ツインリサーチセンターは、早川和生センター長が医学系研究科保健学専攻で長年蓄積してきた12,000組

(ツインリサーチセンター 特任准教授 本多 智佳・准教授(兼) 渡邊 幹夫)



ものツインレジストリ(ふたごの登録簿)を基盤として、2009年に設立された研究組織です。所属しているのは専任教員2名、研究員5名と兼任教員38名。医学系研究科の教員が最も多いものの、上述のように大変多くの分野に応用できることから歯学研究科、基礎工学研究科、人間科学研究科、社会経済研究所などの研究者も兼任教員として所属しています。

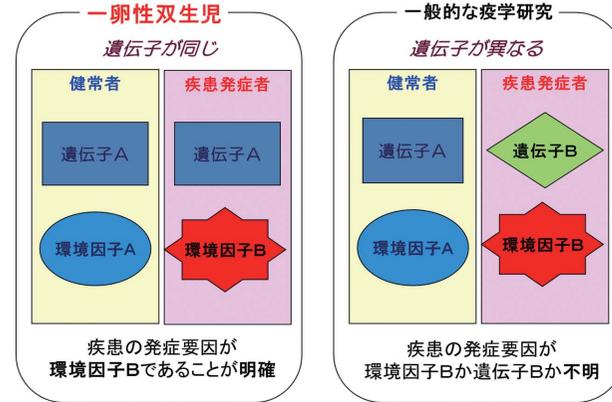
当センターでは、ふたごのみなさんを対象とした疫学的な調査や採血などによる代表的な臨床検査を実施してふたごの基礎データを蓄積するとともに、将来の解析に備えてゲノムDNAや血清を保存しており、すでに遺伝子の多型やDNAのメチル化などを網羅的に解析しています。さらに心電図、内臓脂肪検査、頸部超音波検査や骨密度測定、歯科検査、外表加齢変化の検査、脳磁図検査、PET検査なども実施しており、これらのデータや保存している生体試料を研究者に提供できる基盤作りを行っています。

このような研究に協力いただけるふたごのみなさんを募集するのはもちろん、ふたごのみなさんに当センターの研究を知っていただくとともに、交流の場を作ることを目的として、2012年から「ふたごの集い」を主催しています。さらにふたご研究の国際的な協力体制を確立するために、当センターは国際ツインレジストリネットワーク会議(International Network of Twin Registries: INTR)のメンバーとなっています。

今後さまざまな研究に応用できるようにこの貴重なリソースを充実させたいと思います。みなさんの周りにふたご(一卵性・二卵性を問いません!)の方がいらっしゃいましたら、ぜひ当センターをご紹介します。



大阪大学ツインリサーチセンターではこんな活動をしています



【左図】ツインリサーチと疫学調査の違いについての模式図。一卵性双生児では、遺伝子が同じであるため、環境因子の影響のみを明確に解析することが可能です。



第2回INTR会議(2013年5月31日~6月1日開催)では、19カ国から約50名のふたご研究者が集まりました。当センターからも、招待を受けた教員や研究員計4名が参加しました。当センターが保有するレジストリは、参加した組織の中でも生体試料などの付随情報が最も豊富であり、疾患の診断についても信頼性の非常に高い客観的な方法をとっていました。

ツインリサーチセンターでは、 ふたごボランティアを募集しています

ツインリサーチセンターでは、ふたごの研究にご協力いただける成人のふたごボランティアを募集しています。一卵性・二卵性どちらの方も大歓迎です。まずは資料をご請求ください。ふたごのみなさんだからこそ成し得る社会貢献に、ぜひとも力をお貸しください。

資料請求先
ふたごボランティア
に関する
資料のご請求

郵便番号・住所・氏名・電話番号を明記して、はがき・FAX・メールで「ふたごボランティア募集」係へどうぞ。
はがき 〒565-0871 大阪府吹田市山田丘1-7
大阪大学大学院医学系研究科附属 ツインリサーチセンター事務局
FAX 06-6879-2557 Eメール info@twin.med.osaka-u.ac.jp



受賞(章)・表彰等

平成25年度 春の叙勲受章者

瑞宝中綬章	大阪大学名誉教授(元言語文化研究科教授)	藤田 實
	大阪大学名誉教授(元工学部教授)	世古口言彦
	大阪大学名誉教授(元工学部教授)	児玉慎三
	大阪大学名誉教授(元工学部教授)	福本 暁士
	大阪外国語大学名誉教授	田川 弘雄
瑞宝単光章	元大阪大学施設部整備課電話交換室長	村上博子

阪大・大工大合同チーム JoiTech RoboCup 2013 ヒューマノイドリーグアダルトサイズ部門で優勝

工学研究科の浅田稔教授が率いる阪大・大工大合同チーム JoiTech が、オランダ Eindhoven で 6 月 26 日～ 30 日まで開催された RoboCup 2013 ヒューマノイドリーグアダルトサイズ部門にて優勝しました。それとともに、その年の大会で最も貢献したヒューマノイドに授賞されるルイ・ヴィトン ベストヒューマノイド賞も併せて受賞しました。



受賞等

文学研究科	秋田茂 教授	第14回読売・吉野作造賞
医学部附属病院	材料部	平成24年度新機械振興賞
医学系研究科	櫻井大輔さん(D1)	日本心エコー学会 第24回学術集会 YIA 最優秀賞
	増田佳純 助教	日本超音波医学会 第86回学術集会奨励賞
薬学研究科	松田敏夫 教授	日本薬学会 学術貢献賞
	岡田欣晃 准教授	日本薬学会 奨励賞
	廣部祥子 助教	日本薬剤学会 第28年会最優秀発表者賞
基礎工学研究科	郭藍さん(M1 ※当時)	The 8th Asia-Pacific Microwave Photonics Conference (APMP2013) APMP Best Student Paper Award
	塩出剛士さん(M2 ※当時)	
	石垣司さん(M2 ※当時)	
	鶴田一魁さん(D1)	
	富士田誠之 准教授	
	永妻忠夫 教授	
	高島佑介さん(M1 ※当時)	
	近藤潤さん(M1 ※当時)	JCNIRS Student Travel Award
	Yusuf Nur Wijayantoさん(D3)	第34回(2013年春季)応用物理学会 講演奨励賞
	永妻研究室	NEジャパン・ワイヤレステクノロジーアワード2013 優秀賞
	山本卓也さん(M2)	29th International Symposium on Space Technology and Science Modi Memorial Jaya-Jayant Award

— 第14回課外活動総長賞 —

最優秀賞	該当なし	
優秀賞	西山早紀(薬学部B5)	第13回大阪国際音楽コンクール Section III POA 部門1位 ほか
	安本周平(工学研究科M2)	第13回理工学系学生科学技術論文コンクール最優秀賞・文部科学大臣賞受賞
特別賞	男子ハンドボール部	関西学生ハンドボール春季リーグ戦入れ替え戦にて1部リーグ昇格
	漕艇部	全日本選手権女子舵手付きキョドルブル 岡崎瑞祈 金メダル ほか
	小森康祐(準硬式野球部)	平成24年度関西六大学準硬式野球秋季リーグ 打点王・ベストナイン・本塁打賞
	囲碁部	秋季関西リーグ 一部リーグ優勝、立命館大学の二十連覇を阻止 ほか
	法律相談部	第14回新島襄記念法律討論会 最優秀チーム賞、最優秀立論者賞(林 憲太郎) 受賞
	競技かるた会	学生選手権A級3位 太田知里 ほか
	西尾真衣(外国語学部B3)	日本テレビ「日本No.1の頭脳王!大決戦!!2013」最終試験の語学創造力部門1位 総合成績上位トップ5人 ほか

— 第5回大阪大学総長による表彰 —

人間科学研究科	中井宏 助教	基礎工学研究科	水落憲和 准教授	
理学研究科	杉山成 特任准教授		境慎司 准教授	
	岡本亮 助教		山元淳平 助教	
	金澤有紘 助教		産業科学研究所	沼尾正行 教授
医学部附属病院	井上了 主任		真嶋哲朗 教授	
歯学研究科	村上秀明 准教授		満上育久 助教	
薬学研究科	張功幸 准教授		立川貴士 助教	
	古徳直之 助教		奥村由香 技術職員	
工学研究科	近藤明 教授		松下雄貴 技術職員	
	井上豪 教授		羽子岡仁志 技術職員	
	齋藤彰 准教授		古川和弥 技術職員	
	松村浩由 准教授		大西政義 係長	
	井上義雄 助教		蛋白質研究所	古川貴久 教授
	當代光陽 助教		超高压電子顕微鏡センター	松田淳 技術職員
	杉原達哉 助教		核物理研究センター	依田哲彦 助教
	尾崎典雅 助教			高久圭二 助教
大井博己 技術専門職員			吉田英智 技術専門職員	
中原勝治 技術専門職員		免疫学フロンティア研究センター	伊勢涉 特任准教授	
大城秀治 技術専門職員			齊藤達哉 特任准教授	
泉太悟 技術職員			鈴木一博 特任准教授	
基礎工学研究科	白石誠司 教授		森松美紀 特任助教	
	三宅淳 教授	学際融合教育研究センター	松行輝昌 准教授	
	重田育照 准教授			

人事

— 新部長 —

平成 25 年 6 月 1 日	教育学習支援センター長	竹村治雄
-----------------	-------------	------

— 新教授 —

平成 25 年 5 月 1 日	渡邊尚	【所属】情報科学研究科 インテリジェントネットワーク講座 【最終学歴】S62.3 大阪大学大学院工学研究科通信工学専攻博士後期課程修了	【前職】静岡大学
平成 25 年 6 月 1 日	堤一昭	【所属】文学研究科 共生文明論講座 【最終学歴】S63.3 京都大学大学院文学研究科東洋史学専攻(東洋史学) 修士課程修了	【前職】本学准教授
	中田研	【所属】医学系研究科 健康スポーツ科学講座 【最終学歴】H5.3 大阪大学大学院医学研究科外科系専攻博士課程修了	【前職】本学講師
	長峯健太郎	【所属】理学研究科 宇宙惑星進化化学講座 【最終学歴】H13.8 プリンストン大学大学院物理学博士課程修了	【前職】ネバダ大学
平成 25 年 7 月 1 日	石北央	【所属】理学研究科 生物物質学講座 【最終学歴】H16.3 Freie Universitaet Berlin Institut fuer Chemie und Biochemie	【前職】京都大学
	岡野直樹	【所属】産学連携本部 【最終学歴】S61.3 京都大学大学院工学研究科電気工学専攻修士課程修了	【前職】総務省大臣官房付
	木村真一	【所属】生命機能研究科 生体ダイナミクス講座 【最終学歴】H3.3 東北大学大学院理学研究科物理学第二専攻博士後期課程修了	【前職】分子科学研究所
	高島成二	【所属】生命機能研究科 細胞ネットワーク講座 【最終学歴】H5.3 大阪大学大学院医学研究科内科系専攻博士課程修了	【前職】本学准教授
	山本雅裕	【所属】微生物病研究所 感染機構研究部門 【最終学歴】H18.3 大阪大学大学院医学系研究科生体制御医学専攻博士後期課程修了	【前職】本学准教授

訃報

理学部	中岡稔 名誉教授	平成 25 年 3 月 15 日 逝去
教養部	木下達彦 名誉教授	平成 25 年 5 月 16 日 逝去
理学部	千原秀昭 名誉教授	平成 25 年 6 月 23 日 逝去

医学部附属病院に 2 つの新センターが発足しました

●国際医療センター

未来医療開発部に国際医療センター (Center for Global Health: CGH) が、2013 年 4 月に発足しました。澤芳樹センター長のもと、中田研副センター長、南谷かおり副センター長と、事務担当者 3 名が以下の業務を行っています。

1. インバウンド (外国人患者の診療、外国人医師、看護師、技師など医療従事者などの研修、それに伴う医療通訳、コーディネーターの育成、ネットワーク作り)
2. アウトバウンド (大阪大学及び日本で開発された医薬品、医療機器、並びに日本の医療システム等の海外への展開、国際治験、国際共同研究の推進)
3. 国際医療の教育、研究



澤センター長

医学系研究科保健学専攻、人間科学研究科、言語文化研究科、外国語学部、りんくう総合医療センターなど学内外のネットワークを通じて日本の医療による国際貢献を果たすことを目標に活動を行いますので、ご意見やご要望があれば気軽にご相談ください。(連絡先: cgh@dmi.med.osaka-u.ac.jp)

●消化器センター

中央診療施設として消化器センターが、2013 年 4 月に発足しました (センター長: 森正樹)。

消化器とは、食物の消化・吸収にかかわる臓器のことで、食道・胃・小腸・大腸・肝臓・胆道・膵臓などで構成されています。非常に広範な領域におよぶ器官であるとともに、関連する疾患は、悪性腫瘍 (癌) をはじめとして、炎症性疾患、機能性疾患など多岐にわたっています。

現在ほとんどの病院では、消化器疾患に対して、消化器内科と消化器外科が別々に診療を行っているのが現状です。しかしながら、同じ消化器におこる疾患を内科医と外科医がまったく別々に診療するより、必要に応じてお互いに連携して診療する方が、患者さんにとっても医療者側にとっても良いと考え、発足に至りました。今回、消化器センターが発足することで診断、内科的治療、外科的治療の相互移行がシームレスとなり、複雑な病態への迅速な対応と、病状に応じた継続的な診療が可能となります。



森センター長



大阪大学中之島センター 特別割引制度

大阪大学関係者 (卒業生、教職員 OB、教職員、学生) を対象に
使用料・分担金の「**全額免除**」を実施中! (2013 年 12 月 28 日まで)
※但し、使用目的など条件があります。詳細は、本学公式ウェブページから「中之島センター」で検索

制度開始以降、これまで約 280 件の利用がありました。今後もぜひご利用ください。

- ・フリースペース「リエゾン commons」を設置しております (無線 LAN、電源を利用できます)。
- ・ケータリングサービスについては、交流サロンまでお問い合わせください。

大阪大学未来トーク 「物事の本質を見極め世界に羽ばたく」 後期 (10月～1月) の開催日程等が決定!



様々な分野で活躍中の著名な方に、各界の最先端の情勢を学内外の方を対象に講演していただく「大阪大学未来トーク」。このたび、後期 (10月～1月) の日程等が以下のとおり決定しました。
参加申し込み等詳細については、おって本学公式ウェブページにてお知らせいたします。



問合せ先: 未来戦略支援事務局総務係
TEL: 06-6879-4897 FAX: 06-6879-4899
E-mail: mirai-talk2013@iai.osaka-u.ac.jp

第5回

【日時】10月28日 (月) 17:00～18:30
【場所】コンベンションセンター (吹田キャンパス)
【講演者】安藤 忠雄 (建築家/東京大学名誉教授)

第6回

【日時】11月18日 (月) 17:00～18:30
【場所】大阪学生会館 (豊中キャンパス)
【講演者】西岡 郁夫 (株式会社イノベーション研究所代表取締役社長/丸の内「西岡塾」塾長)

第7回

【日時】12月16日 (月) 16:30～18:00
【場所】コンベンションセンター (吹田キャンパス)
【講演者】千 玄室 (裏千家 第15代・前家元/ユネスコ親善大使)

第8回

【日時】1月20日 (月) 17:00～18:30
【場所】大阪学生会館 (豊中キャンパス)
【講演者】佐川 真人 (インターメタリクス株式会社最高技術顧問/ネオジム磁石発明者)



大阪大学総合学術博物館 2013年夏期ミニ企画展 日本にいた! 「絶滅」古生物 - 阪大博×化石ハンター×古生物イラストレーター -

開催日: 7月20日 (土)～8月31日 (土) 10:30～17:00 入場無料
開催場所: 総合学術博物館 待兼山修学館
開催趣旨: 本展では、国内最大級の獣脚類の歯化石など、日本で発見された話題性の高い大型脊椎動物の実物化石を中心に展示します。また、マチカネワニ発見時に採取した資料群から、昨年新たに見つかったマチカネワニの部分化石も特別展示します。さらに古生物イラストレーターの協力を得て、臨場感あふれる復元画も一緒に展示する予定です。
問合せ先: 総合学術博物館待兼山修学館 TEL: 06-6850-6284



サイエンスカフェ@待兼山

開催日: 9月7日～14日および9月28日～10月12日の各土曜日
開催場所: 総合学術博物館 待兼山修学館 3階セミナー室
開催趣旨: 総合学術博物館で、サイエンスカフェを楽しみませんか。コーヒーを片手にゆったりとした雰囲気、で「科学する」とはどういうことか、研究者とともに考えていきます。それを通して専門家と一般の方々の間のコミュニケーション不全を少しでも改善したいと思っています。お気軽にご参加ください。
参加方法: 各カフェ開催日の2ヶ月前～1ヶ月前までにWebフォームまたは往復ハガキにて事前申込。
参加費用: 200円 (飲み物代)。詳細は本学公式ウェブページから「サイエンスカフェ@待兼山」で検索。
問合せ先: 総合学術博物館待兼山修学館 TEL: 06-6850-6284

適塾創設175周年・緒方洪庵没後150年記念 大阪大学シンポジウム「医の知の未来へ」



大阪大学の原点「適塾」は、今年創設175周年、緒方洪庵没後150年に当たります。適塾からは福澤諭吉、大村益次郎、長与専斎、橋本左内などの傑出した人材を輩出しました。シンポジウムでは、適塾の歴史的意義とともに、22世紀に輝く大阪大学の未来を考えます。

開催日: 8月3日 (土) 13:30～18:00
開催場所: コングレコンベンションセンター (うめきた・グランフロント大阪 ナレッジキャピタル地下2階)
講演者等: オープニング講演 平野俊夫 (大阪大学総長)
「眼とiPS細胞の未来」西田幸二 (大阪大学医学系研究科教授)
「適塾橋本左内と先端デザイン学」川崎和男 (大阪大学名誉教授・工学研究科特任教授)
「適塾と命の重さ」久坂部羊 (作家・医師)
問合せ先: 社会学連携課 TEL: 06-6444-2137 (月～金9～17時) FAX: 06-6444-2338 E-mail: sympo-info@tekijuku.osaka-u.ac.jp



大阪大学×大阪ガス「アカデミックッキング」vol.38 「きのこ食べちゃい隊」

開催日: 9月25日 (水) 18:30～21:00
開催場所: 大阪ガスッキングスクール千里 (千里中央駅スグ。豊中市新千里東町1-3-141 センちゅうPAL1F)
開催趣旨: 講師は栗原佐智子氏 (大阪大学21世紀懐徳堂・招へい研究員)。「食」や「料理」という身近な切り口から、学問的なものの見方・考え方を身につける教養講座です。専門的で難解な大学の先生の研究でも、どこかで普段のわたしたちの生活とつながっている…。そんな楽しい実感から、日常生活にちょっと変化をもたらすアカデミックな思考回路が生まれます。あなたも一緒に、ガス火で作る料理から新たな学びのどばらを開いてみませんか?
参加方法: ウェブページ (8/1～) または電話 (8/7～) により申込。定員24名。15歳以上ならどなたでも参加可 (申込多数の場合は抽選)。受講料2,000円
問合せ先: 大阪ガスッキングスクール千里 TEL: 06-6871-8561



Handai-Asahi中之島塾 (7～9月期)

開催日: 7月27日 (土)～9月30日 (月) 全6講座
開催場所: 中之島センター
開催概要: 朝日カルチャーセンターと大阪大学との共同講座で、主に学外からの受講生に向けて、大阪大学が取り組むユニークな研究の成果を本学研究者が講義します。
参加方法: 朝日カルチャーセンター中之島教室のウェブページまたは電話 (06-6222-5224) により申込 (随時受付中)。受講料1,575円 (全2回の講座は3,150円)。
問合せ先: 21世紀懐徳堂 TEL: 06-6850-6443

平成25年度「教員のための英語リフレッシュ講座」

開催日: 8月5日 (月)～9日 (金)
開催場所: 中之島センター
講演者等: 言語文化研究科教員ほか
参加方法: 言語文化研究科言語文化専攻のホームページを参照。講習料10,200円
問合せ先: 言語文化研究科・外国語学部豊中事務室総務係 TEL: 06-6850-5855 E-mail: genbun-soumu@office.osaka-u.ac.jp

～学生の熱き闘い、七大戦始まる～

7月6日 (土) 午後、大阪学生会館講堂にて第52回全国七大学総合体育大会 (通称: 七大戦) の開会式が行われました。今大会は本学を主管校として、昨年12月のアイスホッケーを皮切りに開催されており、開会式では、北海道大学から九州大学までの旧七帝国大学の総長、理事、実行委員、大会関係者が一堂に会して健闘を誓い合いました。
阪大は49回、50回大会を制し (いわゆる主管校破り)、3連覇で臨んだ昨年は僅差で優勝を逃しました。開会式に引き続いて開催されたレセプションでの挨拶に立った平野俊夫総長は、「主管校の意地にかけて優勝する。今大会のために人工芝グラウンドも新たに造ったし、何が何でも優勝旗を」と、選手に熱い檄を飛ばしました。



井上慎弥
大会実行委員長の挨拶



選手宣誓をする
ラクロス部の横山功明主将



第52回七大戦
マスコット
「タイコウくん」

安倍総理が来学、学生と懇談

安倍晋三内閣総理大臣が6月28日(金)に来学され、全学教育推進機構のステューデント・コモンズで、関西の国公立大学の学生7名と懇談されました。

本学からは工学研究科博士前期課程2年の古川高幸さん(右ページ中段左側)が懇談に参加しました。古川さんは、「博士後期課程に進学する学生の考えを少しでも行政に知っていただく良い機会でした。これから先、日本の学術、産業の振興のための優秀な研究者人材の育成が進んでほしいと思います」と話していました。

約40分にわたり、大学生活、進学や就職、将来の夢や希望などについて安倍総理と意見交換し、安倍総理からも「みなさんしっかりとした目的意識を持っている。夢に向かって進んでほしい」と激励がありました。

懇談後、参加した学生は一様に安倍総理と懇談できたことに誇りと喜びを感じていました。



大阪大学のブランディングのためのロゴ使用のお願い



大阪大学では2011年に迎えた創立80周年において「原点へ・未来へ」をキャッチコピーとして掲げました。そして今、大阪大学は未来へ向けて着実に歩みを進めています。その方針を定めたのが昨年発表された「大阪大学未来戦略(2012-2015)—22世紀に輝く—」であり、上記右側のロゴがその方針をイメージできるよう、22世紀という未来へ向かって力強く飛翔する鳥をモチーフとし、そしてその軌跡が輝かしい大阪大学の未来を表現するようにデザインしました。

一方で、本学の原点たる適塾は今年創設175周年という節目を迎えます。この大阪という地に適塾が生まれたこと、そして「人のため、世のため、国のため、道のため」という教養に集い、切磋

琢磨した先人たちのことも私たちは忘れてはなりません。上記左側のロゴは、本学の原点たる適塾とその歴史に対する尊敬の念を込めてデザインしたものです。

これらのロゴは、大阪大学の外部に対するイメージ作り(=ブランディング)に重要であるとともに、学内の皆様に本学のこれからをお伝えする重要なシンボルです。これらのデータは大阪大学ウェブライブラリ(OWL <https://owl.osaka-u.ac.jp>)から自由にダウンロードいただけます。学内の皆様におかれましては、印刷物や記念品、ウェブページなどでの積極的なご使用をよろしくお願いたします。

ロゴ制作：クリエイティブユニット

大阪大学ほか7機関が共同研究拠点をうめきたにオープン

大阪大学は、情報通信研究機構、大阪電気通信大学、関西大学、関西学院大学、サイバー関西プロジェクト、NPO法人 バイオグリッドセンター関西、臨床医工情報学コンソーシアム関西と共同でナレッジキャピタルタワー C9Fに共同研究拠点を開設しました。プロジェクト名“Vislab Osaka”として、「見えない、わかりにくい“情報”というものをわかりやすく見せる(可視化)」をコンセプトに共同研究、人材育成、産学連携に取り組んでいきます。

大阪大学としては、全国共同利用機関であるサイバーメディアセンターのスーパーコンピュータや可視化サービスを通じて、これらに貢献していきます。産学連携としては、バイオグリッドセンター関西らとスーパーコンピュータを用いた創薬の普及啓発に取り組んでいきます。

Vislab Osakaとしては、ナレッジキャピタル内の世界—ミュージアム“The lab”3Fに展示スペースを持ち、グループの研究成果を発信しています。4月26日の開幕当初から、情報科学研究科の様々な形で情報に触れる展示を行っています。また、文部

科学省のCPS(Cyber Physical System)プロジェクトの研究として“The lab”内にいろいろなセンサーを仕掛けて、その結果を可視化する試みも行われています。

展示スペースでは、大阪大学ニューズレターも配付するなど、本学の広報にも活用しています。今後もナレッジキャピタルという好立地を利用した様々な取り組みを行ってまいりますので、ぜひ皆さんもご参加ください。

